イスラ ムの基本

3.8

明:

信仰告白の最初の部分である“アッラ 以外に信仰に するものはない”（ラ イラ ハ イッラッラ ）の

。

目: 事イスラ ムの信条「信仰の六ヶ条」とその他のイスラ ムの信条

より: M.アブドッサラ ム(2009 IslamReligion.com)

日06 Dec 2009

集日 21 Oct 2010

イスラ ムの宗教における基本は次に示す2つの句の宣言です。

(i) アッラ 以外に信仰に するものはない（ラ イラ ハ イッラッラ ）。

(ii) ムハンマドはアッラ の使徒である（ムハンマドッラス ルッラ ）。

この文章は、シャハ ダ（信仰告白）として知られています。この2句の信仰と 言を通して、人はイスラ ムに 属します。それは信者の生涯におけるモット であり、彼らの信仰、崇 、存在など全ての基本です。この 事ではこの 言の最初の部分について述べていきましょう。

‘ラ イラ ハ イッラッラ ’という 言の重要性

最初に述べたように、この 言はイスラ ムという宗教において何よりも最も重要な部分です。というのもイスラ ムはタウヒ ド、または神の 一性と独自性の信仰の断言をするものとして成り立っているからです。そのため、この 言は“タウヒ ドの宣誓”とも呼ばれます。神のこの唯一性と独自性は、神のみへの崇 と服 のために必要不可欠なものです。イスラ ムの宗教は基本的に人が神のみの法に い、かれのみを崇 するという生き方です。イスラ ムは、神以外の何物をも崇 しないことを しているただ一つの真の一神教なのです。それゆえ、私たちは 言者（彼に神のご慈悲とご祝福がありますように）の多くの 承にもあるように、 でもこの句を述べ、 践する者は永 の に入り、そしてそれに反するものは でも永 に地 の 火に留まると言われています。

この 言はまた、神のみを崇 するという人の人生の目的を します。そしてそれこそは人の存在理由なのであり、人生における最も重要な 面なのです。アッラ はクルア ンの中でこう言われています:

“????????????????????”?(????? 51:56)

この 言に られるタウヒ ドのメッセ ジは、イスラ ムにとって特 なものではありません。その重要さゆえ、このメッセ ジの本 と真 は全ての 言者によってもたらされたのです。人 の黎明期から、神は全ての人々と国家に 言者を遣わされ、かれのみを崇 し、全ての りの神々を拒否するよう命じられました。アッラ はこう言われています:

“???….” (????? 16:36)

このタウヒ ドの概念が人の心と精神に根付かなければ、人は喜んで神の命令と全ての崇 行 をかれのみに向けて行うことがありません。 言者ムハンマド（彼に神のご慈悲とご祝福がありますように）が一人で13年に渡り、マッカで人々をタウヒ ドへと呼びかけ けたのはこういった理由からです。そして当 は、最小限の崇 行 のみが命じられていました。そしてこの概念が信者の心に 固たるものになった 、他の多くのイスラ ムの戒律が明らかとなったのです。彼らは自分たちの人生さえも喜んで 牲にしました。もしこの基 が欠けていれば、他のいかなることも益することはありません。

?????????????????

ラ　イラ ハ イッラッラ は文字通り、“アッラ 以外に神はない”という意味です。ここで神という言 が表しているのは、崇 される全ての 象です。この 言が意 するのは、人 により崇 されている他の神などがあったとしても、それらのいずれも崇 に するものはない、ということです。つまり真の唯一神以外はいかなる 象も、、神として崇 される 利がないということなのです。

ラ　イラ..(崇 に する神はない…)

この二つの　は全ての 造物への崇 を否定しています。ムスリムは、アッラ 以外のいかなるものに しても、崇 行 を拒否します。この拒否はあらゆる迷信やイデオロギ 、生き方、または神的献身や 、または　的服 を ういかなる 力者などにも及びます。神はクルア ンの多くの 所で、人々がアッラ 以外に崇　象としている全てのものは 造物であり、それらには何の力もご利益もなく、いかなる崇 行 にも しないと述べています。

“??(?????25:3) ”

ある人は、他の 象または存在を崇 します。なぜなら彼らはそれが宇宙に きかけたり、その力が利益や被害をもたらしたり、またはその存在自体が素晴らしっかたりするために崇 行 に し、特 な力を えていると信じているからです。神は、 や、木々、石のような物体であれ、あるいはいかなる力を えた人 、 言者、 者、天使、王などの意 のある存

在であれ、人々がアッラ 以外のものを崇　象と めるような概念を否定されます。それらは彼ら崇 者と同 に なる 造物であり、自分たち自身さえも助ける力がないのです。彼らは不完全さを えた 造物に ぎず、アッラ に服 しています。それらはいかなる崇　象にも しないのです。

事 、多くの者は神の最高 力と支配を信じています。しかし彼らは神の天国を地上の王国のように想像するのです。ちょうど王に多くの大臣と信 できる仲 があるように、彼らは「 人’ 」や副次的な神々を、神への私たちの仲介者であると考えるのです。そして彼らにある の崇 行 や礼 などを捧げることによって、神に近付くための仲介人とするのです。神は言われました:

“??” (????? 39:38)

　のところ、イスラ ムには仲介者など存在しないのです。どのような人も崇められず、またどのような存在も崇 されないのです。ムスリムはアッラ だけに直接、全ての崇 行 を捧げるのです。

…イッラッラ (…アッラ 以外には)

いかなる 造物も崇 される 利を有さないことを否定したのち、シャハ ダは‘…アッラ 以外には
’と述べることで、アッラ のみのための神 さを断言します。クルア ンの多くの 所でアッラ は、いかなる 造物も利益や害をもたらす力を えてはおらず、それゆえにいかなる崇 行 にも しないが、アッラ は唯一全宇宙を所有し支配されるお方であり、かれのみに崇 される 威が属するのだと述べています。アッラ のみがかれの 造物に供 し、全てを支配するのです。かれのみが益や害をもたらすことができるのであり、必ず　化するかれの意思を止めることは にも出来ません。このようなアッラ の完全さ、その最高の 力を通してのかれの全支配と 大さゆえに、かれは全ての崇 行 と礼 、崇敬に するのです。

“??? ??? ??’” (?????13:16)

神はまたこう言われます:

??? ??” (?????29:17)

そして神はこう言われます:

??? ???” (?????27:60)

アッラ のみが崇 に する唯一の存在であり、かれ以外の何か、またはかれと共に何かを崇 することは大 な いです。全ての信仰は真の神性のみに向けられるべきです。そして全ての いはかれを通してのみ求められるべきです。全ての未知なる恐れはかれからであるべきで、そして全ての希望はかれにのみ置かれるべきなのです。また全ての神 なはかれゆえに抱かれるべきで、全ての嫌 はかれゆえの嫌 であるべきです。また全ての良い行いはかれの と喜びのために行わなければならず、全ての 事は彼のために避けられなければなりません。このような方法でムスリムはアッラ のみを崇 します。そしてこのことからも、私たちはイスラ ムの宗教全体がいかにこのタウヒ ドの 言に基づいているかを理解するのです。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/423

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。